

# まら



## CONTENTS

- P1…宣言者のページ
  - 島根大学生物資源科学部卒業生 藤林民恵さん
- P2…地域で生産者と実需者が連携して消費拡大に取り組む事例を紹介！ Part2
  - ～加工業者と生産者の連携事例～
  - 実需者：(有)垣崎醤油店 垣崎宏次さん
- P3…○生産者：新田良作さん
- P4…農林大学校ってどんなところ？ 有機農業専攻を紹介！
- P5…シリーズ第38弾「環境農業」トピック
- P6…お知らせ

第42号

### 島根の『環境農業』情報誌

『環境農業』に関する県の考え方や事業の進行状況をリアルタイムでお伝えし、皆さまとネットワークを結ぶことを目標としています。



### ○島根大学生物資源科学部卒業生 藤林民恵さん ～ひとからひとへつながる“縁農”～

私は、島根大学生物資源科学部に在学中、松江市八雲町で有機農業に励む福間忠土さんと出会いました。週に1回、学生や一般の方が福間さんの農園に集まり、田畑で農作業のお手伝いをしています。そのお手伝いのことを、私たちは農で縁をつなぐ「縁農」と呼んでいます。



福間さんは、アイガモ農法に力を入れておられます。アイガモ農法とは、稲が活着したところに雛を田んぼに放ち、草を食べてもらうことなどで除草する農法。福間さん宅のお庭には、現在、すでに田んぼでの働きを終えた15羽ほどのカモが飼われていて、次の田植え時に備え、このカモたちから卵を採っておられます。次の年、ふ化したカモたちは、稲が活着したら田に放たれ、イネとともに成長します。

田んぼで泳ぐカモたちは、時には囲いを抜けて、福間さんを困らせることがあるそうです。また、田んぼでの働きを終えて、家(福間さん宅のお庭)に帰ったカモたちも、柵の隙間から出て畑を歩きまわることが度々。

福間さんはそんなカモたちの姿があまりに可愛らしかった

ので、その様子を紙芝居にしました。

紙芝居の絵を描かれたのは、私と同じ島根大学生物資源科学部出身の猪股愛さん。猪股さんの描く絵はとてもあたたかくステキです。あまりにステキなので、福間さんの田んぼで田植えや稲刈り体験をした幼稚園の園児たちが卒園される時、その紙芝居を使って読み聞かせをしました。皆、静かにじっと聞いてくれました。

紙芝居を少しご紹介します。

いつもは囲いの中で飼われているアイガモちゃんたち。

外の世界が気になるようで、どこか抜け出るところはないかと、隙間を見つけては出掛けます。

「でも、やっぱり家に帰りたい」

そんなことを思っか、あまり遠くには行きません。

アイガモちゃんたちが抜け出たことに気づいたおじいさん。

「こーい、こーい」と呼んでくれます。

おしりをふりふり、しっぽをふりふり。

アイガモちゃんたちはお家へ戻っていきました。



学生時代の農家実習から始まり、卒業後数年してからの「縁農」。有機農業におけるアイガモ農法を通じたカモとの出会い。紙芝居から幼稚園児と、世代を越え、人から人へとつながっていく「農」。「農」には、お金では測れない大切さを感じます。

加工業者

## 有限会社垣崎醤油店

醸造部 垣崎宏次さん(邑智郡邑南町)

(有)垣崎醤油店は、創業90年、邑南町の緑豊かな自然と気候に囲まれ、伝統の技法を大切に受け継いだ醤油・味噌醸造元です。平成28年に地元の有機米を使用した「有機あまざけ」を商品化し、県内はもとより首都圏でも人気商品となっています。

商品開発を手掛けた4代目垣崎宏次さんに、これまでの経緯や想いをお聞きました。



加工業者と生産者の連携事例

## Part 2

# 地域で生産者と 実需者が連携して 消費拡大に取り組む 事例を紹介します。

生産者

## 新田良作さん

(邑智郡邑南町)

邑南町で水稻460a、西洋野菜3aに取り組み新田さんは、安全安心で美味しい良質米を生産し、有機農業を通じて広く社会に貢献したいと、平成19年2月に有機JAS認証を取得しました。これまでの経緯や今後の目標をお聞きました。

### Q1.有機農業に取り組むきっかけは？

農薬散布中に突発事故(突風)により、大量の農薬を吸い込み10日間も寝込んだことがきっかけで、農薬の危険性について身をもって感じ、農薬を使わない農業に関心を持ちました。

### Q2.有機JAS認証を取得するまでの経緯は？

水稻において、除草剤を使用しない栽培は多大な労力を要するため、悩んでいろいろと調べる中、平成13年に紙マルチ田植え機に出会いました。除草剤を使うことなく除草の手間も削減でき、人にも環境にもやさしい方法で米栽培ができることから、平成14年に紙マルチによる除草剤を使わない米作りを開始しました。

そして、田んぼに生息するトンボの減少など肌で感じる中で、農薬をたくさん使用する農業は川やため池に悪い影響を与えていることに気付くようになり、人にも環境にもやさしいお米作りをしたいと本格的に有機栽培に取り組みました。また、作ったお米はきちんとした評価を受けて、付加価値を高めるために平成19年2月に有機JAS認証を取得しました。

### Q3.お米の主な販売先は？

有機米の価値を理解し、信頼関係の築ける取引先を選んでいきます。現在は、垣崎醤油店(有機あまざけの原料として)とグリーンコープ生協が主な販売先です。

### Q4.垣崎醤油店とのつながりは？

垣崎醤油店から「有機のお米で『有機あまざけ』を商品化したい」とお話があり、同じ邑南町というつながりからぜひ協力したいと思いました。生産者の苦労や思いを、『有機あまざけ』という商品を通じて消費者に伝えていただき、嬉しく感じています。

作付け前に今年産の量、価格を相談して決められるので、安心して生産できるようになりました。

### Q5.今後の目標

近隣集落の高齢化が進んでいるので、集落の農地を活用し規模拡大を図り、地域への有機農業の普及を推進し有機農業の輪を広げていきたいです。今後5年で10haまで有機米の規模拡大を目標としています。

自分一代限りと思っていましたが、近い将来、息子と一緒に農業を行うことに期待を膨らませています。

有機米は市場からのニーズが高く安定した価格で契約取引できるので、特別栽培から有機JASへステップアップすることをぜひお勧めします。

### Q1.「有機あまざけ」を商品化しようと思った経緯は？

長年、醤油や味噌を製造しており自社で麹づくりから行っています。自慢の麹と島根のお米を活かした商品ができないか探したところ、発酵食品で注目され始めていた「あまざけ」が良いのではないかと思いつきました。また同じ町内で有機米生産者がおられたので、この有機米を使用し、他社との差別化を図る目的で付加価値の高い「有機あまざけ」に取り組みました。

### Q2.原料のこだわりは？

邑南町は寒暖の差が大きく澄んだ空気と水が流れるため、とても美味しい農産物ができます。「有機あまざけ」の原材料である有機米は、現在、新田良作さんのほか、邑智郡内の生産者1名と県立農林大学校から、年間15トン協議の上、再生産可能な価格で買い上げています。消費者のお客様と一生懸命育ててくださった生産者の両者を結びつけ、皆が笑顔になれるような地産地消の取り組みに近年力を入れております。



### Q3.市場からの反応は？

平成28年度にオーガニック・ライフスタイルEXPOに初めて出展したところ、ちょうど甘酒ブームで市場規模が急成長の時期と重なったため、想定以上の引き合いがあり県産の有機米が足りないくらい注文がありました。現在は少し落ち着いているものの、健康や美容志向の女性を中心に根強い人気があり、たくさんの小売店で常設され、季節を問わず1年を通じて売れる商品になりました。平成29年は30トンのあまざけを製造しました。

### Q4.今後の計画

有機米生産者から「作付け前から売り先が決まり、安心して生産できるようになった」と喜んでいただいています。このつながりを大切にし期待に応えるため、有機米を使った新たな商品開発に取り組んでいます。

また、出前授業や工場見学をはじめとする様々な場を通じて、食育にも力を入れていきたいと考えています。地域社会との繋がりを大切に、食の創造と食文化への発展につくっていきます。



# 農林大学校ってどんなところ？

## <有機農業専攻の紹介!>

はじめまして  
島根県立農林大学校有機農業専攻です。

有機農業専攻は、全国に先駆け平成24年に農林大学校農業科に新設された専攻です。

現在専攻の学生は、1年生9名、2年生9名と農林大の中では一番多く、人気のある専攻となっています。それでは専攻の取り組みについて紹介します。

### 1 豊富な専攻科目(カリキュラム)

カリキュラムは、共通科目以外に専攻独自の科目が多くあり、例えば「有機農業」や「有機稲作」では、有機農業の理念、水稻や野菜の化学肥料・化学農薬を使わない土づくり、病虫害対策、雑草対策や有機JAS認証制度などを学びます。これら座学で学んだ知識や栽培技術を専攻実習で実際に作業をして身につけられるように指導していきます。

なお、水稻は有機JAS認証を取得しており、講義などで学習したことを実践しています。

他にも、1年次の夏休み中に1週間先進農家等で研修する「地域有機農業体験実習」、先進農家を招いて講義をしていただく「有機農業先進事例講義」や先進農家や法人を視察し、学習する「地域農業実習」などがあります。

学生達は今後の就農に備えて、有機農業の技術や知識の習得に向けて一生懸命勉強しています。

### 2 「サテライト校」との連携

県内で有機農業を実践しておられる農業法人を「サテライト校」として位置づけ、現地事例の講義や視察、農家体験の受け入れ等に協力いただいています。これにより学生達は有機農業の実践的で幅広い知識や考えを習得しています。

#### サテライト校(先進有機農業実践農家)

安来市:島根おやさい本舗(施設葉物野菜)

雲南市:木村有機農園(露地野菜ほか)

出雲市:三和農産(有機水稻、加工)

浜田市:江津市:いわみ地方有機野菜の会(施設葉物野菜ほか)

浜田市:やさか共同農場(野菜、大豆、味噌加工)

吉賀町:かきのきむら(自給的有機栽培の水稻、野菜)



有機専攻の学生達



実習パプリカ定植



実習水稻播種



地域農業実習



有機農業先進事例講義



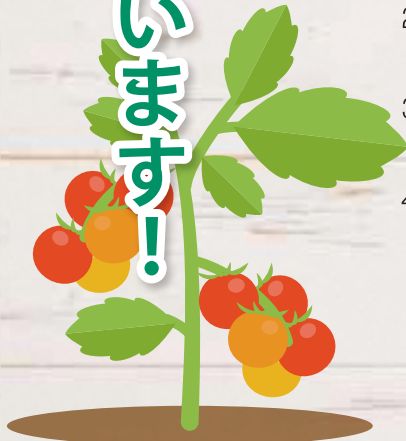
県農業技術センター発

# 環境 農業

シリーズ  
第38弾 トピック



## 単為結果性ミニトマトは 有機施設栽培に適しています！



ミニトマトの有機栽培では、着果・肥大にホルモン剤を使用できないため、一般に多く栽培されている品種では、花房を振動させる等の交配処理が必要となり、作業効率が劣ることが課題となります。

そこで、当センターでは交配処理が不要な単為結果性ミニトマトを有機栽培し、慣行栽培における収量と比較しましたので、紹介します。

2017年、県内の平坦地に半促成栽培(12月下旬播種、3月中旬定植)と抑制栽培(6月中旬播種、7月下旬定植)の2つの作型で試験を実施。「CFネネ」、「べにすずめ」、「エコスイート」という品種を用い、10.5cmポットで第一花房開花前まで育苗した株を株間45cm2条で定植しました。整枝法は1本仕立て、斜め誘引とし、株当たり収量を調査しました。

その結果、半促成栽培では「べにすずめ」が3.2kg、「CFネネ」が2.6kg、抑制栽培では「エコスイート」が2.1kg、「CFネネ」が1.9kgとなりました。慣行栽培における基準収量の80%を目標とし、それと比較すると、半促成栽培では「べにすずめ」が132%、「CFネネ」が107%、抑制栽培では「エコスイート」が117%、「CFネネ」が106%でした。

以上のことから、有機栽培での単為結果性品種の収量性は、慣行栽培と同等もしくはそれ以上となり、目標収量である「慣行栽培の80%以上」を大きく上回りました。収量性が高い品種は、半促成栽培では「べにすずめ」、抑制栽培では「エコスイート」でした。



### 【栽培のポイント】

1. 育苗は10.5cmポットを使用して、第一花房の開花前まで行います(大苗育苗)
2. 元肥は窒素成分量で10a当たり5~10kgを基準とし、地力により加減します(例:油かす)
3. 追肥は発酵有機肥料を用いて、第一花房開花期頃から各段が開花する毎に窒素成分量で10a当たり2kg与えます
4. 有機JAS適合農薬を適宜使用して病害虫を防除します

担当：県農業技術センター栽培研究部野菜科  
 TEL：0853-22-6991  
 MAIL:nougi@pref.shimane.lg.jp

# お知らせ

## ～有機農産物・エコロジー農産物の消費拡大に向けて～

※今年度、県内消費者に向けた下記の情報発信について、株式会社山陰中央新報社に業務委託して実施します。お知らせした内容のほかに、「りびえ〜」や「週刊さんいん学聞」での特集記事の掲載などを予定しています。

### お知らせ 1

#### 「オーガニック・エコキャンペーン」を実施します

消費者の購買を促し、ファンの拡大を目的に「オーガニック・エコキャンペーン」を10月1日(月)～11月30日(金)に開催!

期間中、県内スーパー、直売所等に県産有機農産物・エコロジー農産物のコーナーを設置します。これらの商品を買って、袋に付いている認証マークを集めて応募すると抽選でプレゼントが当たります。



有機JASマーク



島根県エコロジー農産物推奨マーク



### お知らせ 2

#### 「ママふえすin出雲」で子育て世代のお母さんにPRします

20～30歳代の母親向けイベント「ママふえすin出雲」で、有機農産物等のPRを行います。有機農産物に関するクイズに答えて抽選でオリジナルエコバックをプレゼントします。

日時:平成30年9月8日(土)(10:00開場)  
会場:朱鷺会館&しまね花の郷(出雲市西新町)

### お知らせ 3

#### 有機農業体験イベントを開催します

小学生の子供を持つ親子を対象に、有機農産物の理解促進を目的とした農業体験イベントを開催します。安来市で有機農業に取り組む「赤江オーガニックファーム」のほ場で有機野菜の収穫体験や、有機野菜を美味しく簡単に食べる方法などを楽しく学びます。

日時:10月～11月予定  
会場:安来市赤江町

※各イベントの詳細は、県フェイスブック等で掲載する予定です。

## NPO法人 島根有機農業協会より

有機農業技術等波及講座の開催日程をお知らせします。有機農業に興味のある方、より深く勉強をされたい方、この機会にお誘いあわせの上、ご参加ください。お待ちしております!!

#### 有機農業技術講座(圃場での講座もあり!)

講師:Happy Village Farm 経営者 石綿 薫氏  
開催日:第1回 平成30年10月11日(木)  
第2回 未定  
場所:鹿足郡吉賀町柿木村内  
参加費:無料

#### 有機農業講演会

講師:【基調講演】武蔵野美術大学 教授 関野吉晴氏  
開催日:平成31年2月3日(日) 13:30～(予定)  
場所:島根県芸術文化センター グラントワ  
スタジオ1(益田市有明町5-15)

#### 有機JAS認証制度の基礎知識と事務手続きについての講座

講師:NPO法人 島根有機農業協会  
開催日:平成30年11月、12月予定  
場所:(東部)出雲市民会館、(西部)サンマリン浜田 各1回

詳細については、下記連絡先までお願いします

**連絡先** NPO法人 島根有機農業協会(TEL:0855-75-0017 HPアドレス:<http://www.shimane-yuki.or.jp/>)

## 島根県有機農業グループの公式Facebookページを運用中!



アカウント名

島根県有機農業グループ

FacebookURL:<https://www.facebook.com/shimane.yuuki>

\*生産者からの情報提供も受け付けております。掲載、リンクを希望される場合には、有機農業グループ(0852-22-6477)までご連絡ください。

### 宣言の状況

(平成30年7月末現在)

3,893件

消費者の方……3,061件  
農業者の方……688件  
企業・学校等……144件

この情報誌は、「環境を守る農業宣言」をした生産者や消費者の方々及び関係機関に配布しています。ご意見、掲載希望、また配布停止を希望される方は、下記までご連絡ください。

発行・編集

島根県農林水産部農産園芸課 (平成30年9月1日発行)

〒690-8501 松江市殿町1番地

E-mail [econousan@pref.shimane.lg.jp](mailto:econousan@pref.shimane.lg.jp)

TEL.0852-22-6477/FAX.0852-22-6036

URL <http://www.pref.shimane.lg.jp/nosan-engei/>

Facebookアカウント名「島根県有機農業グループ」(<https://www.facebook.com/shimane.yuuki>)

